



## 医療の現場アラカルト - Vol.6

## ポルトガル語担当 Aさん

普段はほとんどと言っていいほど、**在日ブラジル人へポルトガル語**の通訳をしています。今年には旅行者の対応が相次ぐ時期がありました。休暇を利用して日本にいる家族に会うために来日した方が体調を崩して受診するケースです。日本の医療保険に入っていないために支払いが高額になることや、ブラジルの標準的な治療との違いなど、旅行者特有の難しさを実感しました。その中でも可能な限り対応されている医療スタッフの皆様に頭の下がる思いです。



旅行者の通訳の中でも、特に印象に残っているケースがあります。それは飛び入りで診察を希望していたポルトガル人の旅行者でした。旅行中に体調不良になり、「医師であるツアー仲間に〇〇だと言われた」と病名を言って、とにかく診察してもらって薬だけ欲しいとのこと。ただでさえ慣れない**ポルトガルのポルトガル語**を早口でまくしたてられ、四苦八苦の通訳でした。

何とか受けることができた診察の結果は、心配するようなものではないというものでした。どうしても診断が欲しい患者さんはしばらく同じ主張を続けられましたが、医師は平然と「大丈夫ですよ。気になるなら帰国後にもう一度受診するといいですよ。そんなことより、残りの旅行を楽しんでくださいね。」とおっしゃいました。最後のフレーズを通訳した途端、それまでずっと強張っていた患者さんの顔が緩んで、初めて笑顔を見せてくれました。

不測の事態でパニック状態の旅行者にこそ落ち着いて対応できる余裕が必要だと実感し、眉間にしわを寄せて必死に通訳していた自分を反省した出来事でした。

## 「切れてる!? 賞味期限」

### 賞味期限??



通訳センターでの休憩時間に中国人通訳者から頂いたお土産のお菓子。ふと外パッケージを見ると、賞味期限が1か月以上切れている・・・食べるべきか否か。せっかくいただいたし。隣の席の方はもうすでに食べている。迷いながらも、思い切ってご本人に聞いてみたところ、「中国ではお菓子や食品には、賞味期限ではなく製造年月日が印字されている」とのこと。とても驚きました。これはパッケージの製造会社にとって袋を大量生産するうえで効率が良いからではないかな?との中国人通訳者のお話。

日本では賞味期限を気にする人が多いですが、中国では、例えば生の肉はその日が製造日、いつまでに食べるかは自分で判断、だそうです。ということで、中国からの食品のお土産については、印字された日付は必ず過ぎていると知り、「なるほど〜」と、安心して美味しくいただきました😊

## 今月のトピックス



## 「外国人居住者と防災」



今年には阪神・淡路大震災発生から30年の節目の年となります。日頃の災害への備えは不可欠ですが、「言葉の壁」も考慮した対策が必要です。来日4年目で阪神・淡路大震災を経験したMedi-Wayのスペイン語通訳者が、先日、地震から1年が過ぎた石川県能登で行われた防災に関する講演会で、「災害時に外国人居住者をどう助けるのか」ということについて話をしました。母国で大きな地震を経験したことがなかった通訳者は、阪神・淡路大震災当時、日本語でのコミュニケーションが難しく、どこに逃げればよいのかもわかりませんでした。公園に向かう人たちについていったものの、どうすればよいかわからず暗くなるまで公園でじっとしていたところ、たまたま親切な男性が手招きして避難所である中学校まで案内してくれたそうです。この経験から、外国人居住者が近隣の日本人と共に防災について学ぶ機会をもつこと、日頃から交流を持つ機会をつくること、その橋渡し役として日本語でコミュニケーションが取れる外国人居住者を、外国人コミュニティのリーダーとして育てることの重要性を語りました。また災害時には、医療通訳者としても怪我や病気で医療を必要とする外国人を手助けができれば、と考えています。

